

【おいしい天然水を求めて】

福岡県 北九州市立洞北中学校

二年 中尾 日菜多

私が去年、キャンプに行った時のお話です。

キャンプ場の上の方にある小川の水を飲みにお父さんとお母さんと福岡県のキャンプ場に行きました。小川の水を飲むと、今まで味わったことのない水の味がしました。喉を流れるように駆け抜けそれはとてもおいしかったです。その時は1泊2日と短い期間でしたが、家族ともにそのキャンプ場の水の大ファンになり、何度も訪れるようになりました。たまには小川の水で新鮮な野菜を洗ったり、小川の水で足を冷やしたり、そのキャンプ場に行くたびに色々な使い方をして楽しんでいました。

水に関する「水の歴史」という看板に4回目のキャンプ場に行ったときに気づきました。看板を見ると最初の水は岩石だったという事が分かりとてもびっくりしました。岩石が水素と酸素によって水となったのだそうです。私は水は最初から水で、地下にあったものを人間が掘りあてたと思っただけです。私を知った時にとってもびっくりしました。なので今の水がどうなっているのかも知りたくなり、ネットで知らべてみると、今は、ゴミのポイ捨てや、シャンプーなどによる科学物質によって水がどんどん汚染されていると知りました。でもあのキャンプ場の小川の水はすごく透明で透き通っているため「なぜだろう？」と疑問が湧いたのでそれも調べることにし、キャンプ場へふたたび行き、管理人の方にお話をうかがいました。すると、あの小川の水は雨や雪でろ過されていることが分かりました。だから、ミネラルを吸収し、おいしい水になっていたのです。あの小川の水は山の上の高い場所にあるため、森林の働きにより、もつともおいしい天然水が飲めたのです。一方、地上ではあまり川を見つけても濁っていて飲めない物がほとんどです。これはなぜかと言うと地上の川は直接的に海につながっているため海に出た化学物質や、プラスチックの破片、プランクトンの死体、土砂などが川にも流れ

こんできます。そのために濁っていたりするので。山は高いので海からの物が直接的に来るということは少ないです。それきれいな水が保たれているのです。

しかし、キャンプ場に行ける時間がなくなってしまい、1年間をあけてキャンプ場に行くと、小川の水はもう飲めないようになってしまいました。急いで管理人さんの所に行き、理由を話してもらおうと、山の上の小川にゴミのポイ捨てをする人が多くなり、水が濁って飲めなくなりました。私にはがっかりして小川の近くに行き濁った川を見てこう思いました。「わざわざきれいな自然をなぜ壊すのだろう。1人1人が意識をし、ゴミを持ち帰ればこんな事にはならなかったはずなのに・・・。」

この事を振り返り翌日にゴミ拾い活動をしました。したことはありませんでしたが、終わると達成した量が見え、すごくいい気持ちになりました。ゴミ拾いはみんなの未来を守る小さな一歩だと思おうし、これからも安全に水を飲んでいけるようになる活動です。この大切さを多くの人に知ってもらい、水の大切さ、水は自分たちがずっと守っていかなきゃいけないものだとすべての1人1人に自覚を持ってもらいたいと思いました。そして私も、水のおいしさに気づいたのでまたおいしい天然水に出会えることを求めて、水の大切さを伝えていきたいです。